

【経緯・目的】

平成28年熊本地震後の調査により、新たに水前寺断層と立田山断層の一部が活断層として確認され、熊本市にも大きな影響を及ぼす恐れがあることから、水前寺断層と立田山断層を調査し、熊本市防災計画の見直し等、本市の防災に資する。

【調査体制】

必要な専門的指導・助言を得るため、活断層や地震の有識者からなる「水前寺・立田山断層調査検討委員会」を設置

【調査方法】

現地調査：ボーリング調査、反射法探査、ピット調査（簡易トレンチ）等
 文献調査：既存文献やデータの収集・分析、地形判読

【調査年度】 令和3年度

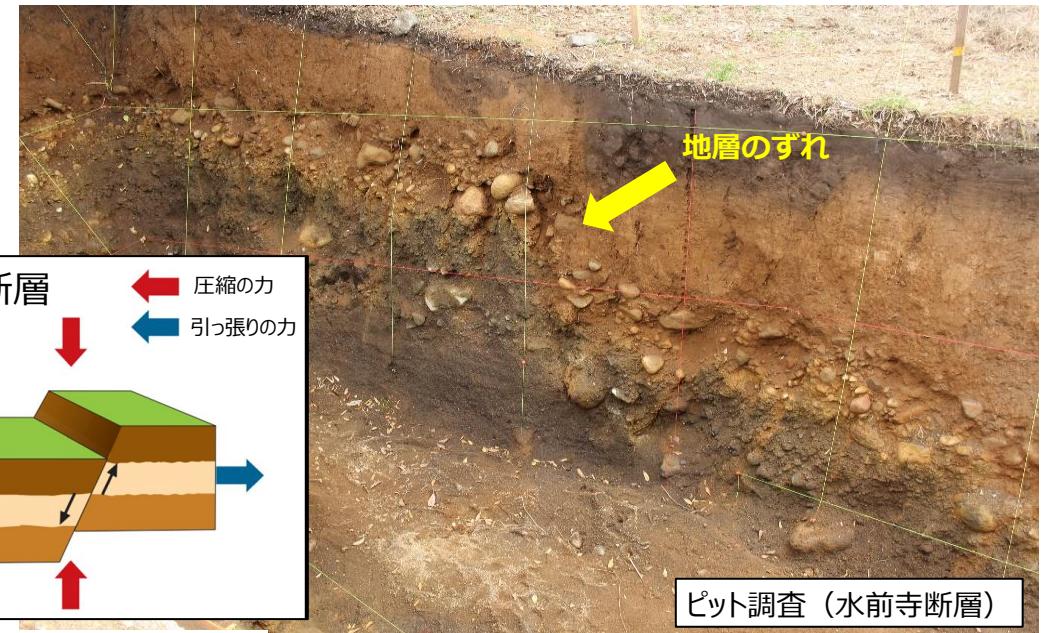


図-1 正断層の概念図
 「地震の発生メカニズムを探る」(文部科学省)より

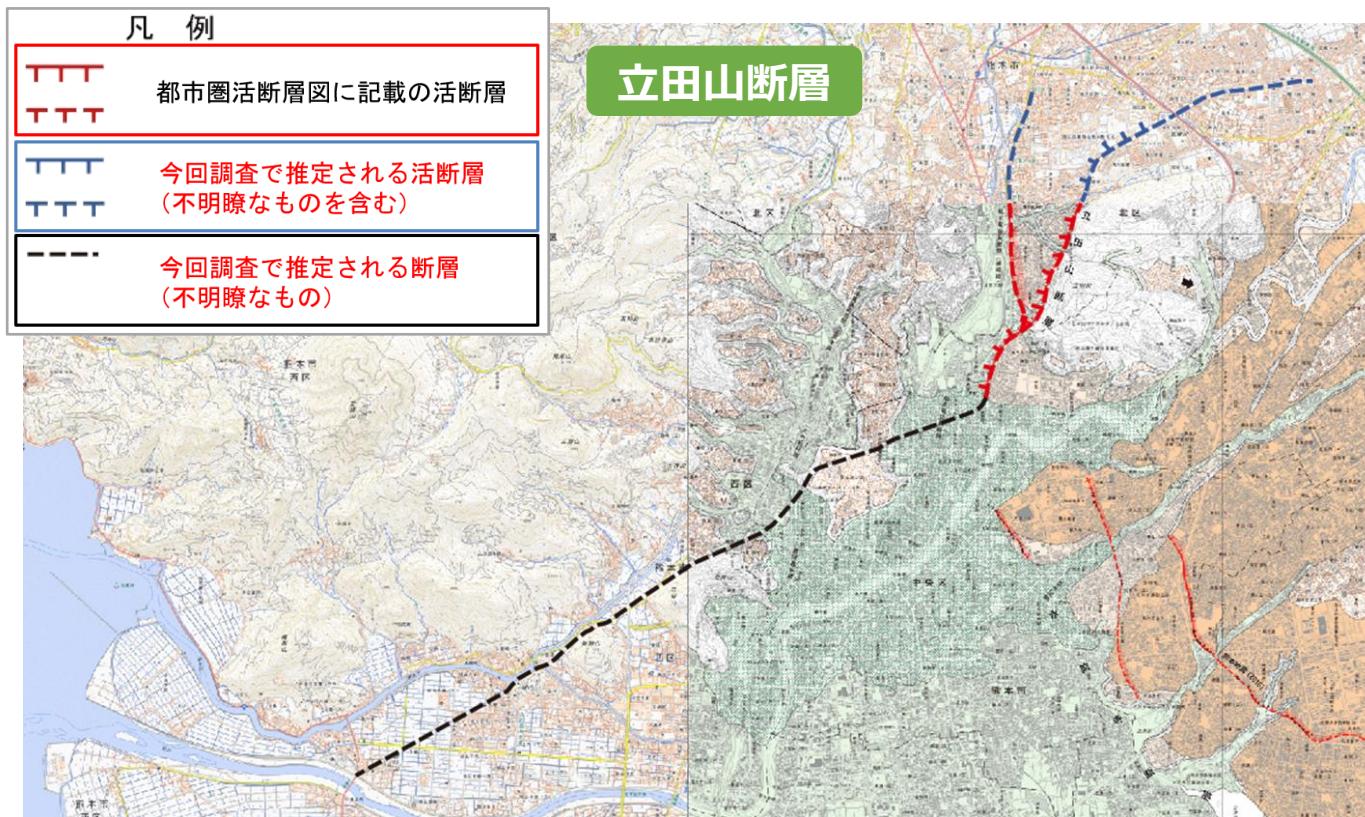


図-2 立田山断層調査結果概要図

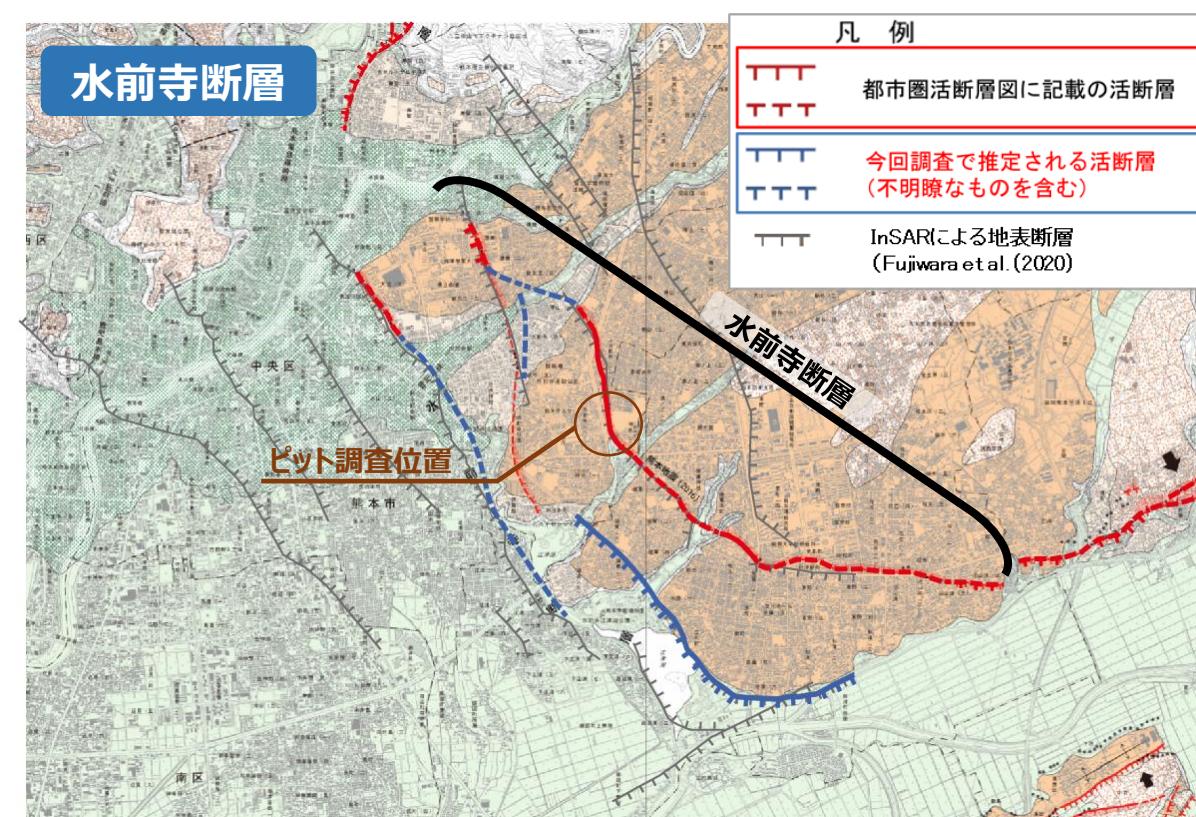


図-3 水前寺断層調査結果概要図

【調査の結果】

- 立田山断層（図-2）については、都市圏活断層図に記載の活断層（赤色の断層）に加え、新たに活断層と推定される断層（青色の断層）が確認された。
- 水前寺断層（図-3）については、正断層が初めて目視で確認され、熊本地震以前にも活動があったことが判明した。また、都市圏活断層図に記載の活断層（赤色の断層）に加え、新たに活断層と推定される断層（青色の断層）が確認された。